

# 学校だより

2月号

港区立白金小学校

発行人 高橋 俊明

平成二十八年一月二十九日

「人間距離（じんかんきより）」

副校長 船木 亮作

新年を迎えたばかりだと思つていましたが、あつという間に二月となりました。三日は節分、四日は立春で暦の上では春の訪れを迎えます。節分には各家庭で「豆まき」を行うこともあると思います。「豆」は「魔滅」と書いて「まめ」と読み、災いや病氣などを引き起こす「魔（鬼）」に豆を打つて追い払い、「滅」無病息災を祈るという意味があるそうです。人の心には「魔」があります。しかし、それに勝つか負けるかは自分の意志次第です。自分の「福」は自分で手に入れたいものです。

先日、全校朝会で「人間距離」という話をしました。学校でもすれ違う時に肩と肩がぶつかつてしまつたり、前の人のかかとを踏んだり人と人との距離が怪しくなつてきています。また、相手の心に突き刺さる言葉を発したり、相手の許容できない範囲に入り込んでしまつたりして衝突することもたびたびあります。コミュニケーションをとる相手が自分に近づくことを許せる空間（パーソナルスペース）に相手が侵入してくると人間は不快感や嫌悪感をもつそうです。アメリカの文化人類学者エドワード・ホールによると人間がもっている他人との距離に関する意識は次の四つに分類されるそうです。

密接距離（15cm～45cm）ごく親しい人が許される距離。

個体距離（45cm～1.2m）友人同士の個人的会話ができる距離。

社会距離（1.2m～3.6m）身体が触れない距離。あらたまつた場などにとられる距離。

公共距離（3.6m以上）講演会や公式な場での距離。この距離感を家庭で学ぶことはなかなかできません。集団である学校では少なくともクラスに25名以上の相手がいます。その中で、互いに心地よいコミュニケーションが築けるようにするには、相手の言動の予測ができ、周囲との適切な人間距離のとれる子に育てることが大切です。たくさんの人と接する中で、白金小学校の子供たちも「人間距離」について学んでいって欲しいものです。

ミニバスケットチーム・白金ドリームス

笠井 裕子

毎週火・木曜日の朝七時三十分～八時十五分と、月に数回土曜日に、白金小体育館で練習しています。七月と二月に港区小学生バスケットボール大会などに参加し、練習試合も行います。

石田源先生と角井慎先生の熱いご指導のもと、元気がいっぱいバスケットを楽しんでいます。チームワークを学び、マナーを知るよい機会です。たくさん仲間が待っていますよ。随時、体験申し込みを受け付けております。

陸上・白金クラブ

棚部 彩

放課後遊び終了のチャイムが鳴ると同時に、「アップ行ってきまーす！」と三年生も率先して練習を始めるようになりました。皆、身体を動かすことが今までよりも、もっと好きになっていきます。三年生以上を対象に公認スポーツ指導者のもと、週二回程度放課後、校庭で練習しています。走・跳・投の陸上の基本的な動きを中心に楽しく体を動かしています。

今年度は、七つの大会に参加し、延べ二十名とリレーチームが入賞しました。ぜひ、ご参加ください。

生活指導部より ーふれあい月間ー

生活指導主任 伊藤 美由紀

十二月七日に、代表委員会の6年生が2名、港区子どもサミットに参加してきました。今回のテーマは「スマホいじめ」。便利な携帯電話が、いじめの原因になっている事実を知り、携帯電話の正しい使い方と、友達との接し方など、幅広く話し合いました。そして、白金小学校の提案として次のように呼びかけました。「自分の言動に責任をもち、人に流されません。」人に流されて、いじめの傍観者になるのではなく、自分の意思でよいこととそうでないことを判断していこう、という内容でした。

子ども同士でも、集団になればそこはりつばな社会です。社会のルールを守る規範意識があつてこそ、みんなが気持ちよく過ごせる環境が実現すると思います。規範意識の芽生えには、大人の関わりが重要です。そこで、心の東京革命推進協議会が進める「心の東京ルール七つの呼びかけ」を振り返ることにします。

- ① 毎日きちんとあいさつさせよう。
  - ② 他人の子どもでも叱ろう。「叱る」姿勢のその奥には「良くなつてほしい」という愛情があります。
  - ③ 子どもに手伝いをさせよう。
  - ④ ねだる子どもにがまんをさせよう。「子どもを不幸にする確かな方法は何でも手に入れられるようにすること」ジャン・ジャック・ルソー
  - ⑤ 先人や目上の人を敬う心を育てよう。
  - ⑥ 体験の中で子どもをきたえよう。
  - ⑦ 子どもにその日のことを話させよう。
- 親が熱心に耳を傾けて話を聞いてくれる。子どもにとって話をする楽しさを実感する時です。
- 親と大人が責任をもって正義感や倫理観、思いやりの心を育み、人が生きていく上で当然の心得を伝えていく取り組み、と東京都教育委員会が推進しています。気持ちのよい学校生活を送れるようにご協力をお願いします。